

令和7年度 福東小学校 研究構想

学校の教育目標

豊かな心 たくましい力のある子
考える子 仲よくする子 やりぬく子

研究主題

自らよりよい生き方を求め、自分の思いを生き生きと表現する児童の育成
～道徳科の学習を核にして～

研究仮説

道徳科において、教師がねらいにせまるための学習指導過程を工夫し、学び方の指導を行うことで、児童が自らよりよい生き方を求め、自分の思いを主体的に表現することができるようになる。

【研究内容1】

ねらいにせまるための学習指導過程の工夫

(1) 児童の実態に応じた主題構成

- ・ねらいを明確にした教材分析と基本発問
- ・学習指導過程の各段階における予想される反応と指導・援助の具体化

(2) 発問の工夫

- ・多様な考え方や感じ方を引き出し、自分とのかかわりに気付く発問の工夫
- ・人間理解や価値理解における「考え、議論する」ための発問の工夫
- ・自己を深く見つめるための発問の工夫

【研究内容2】

子どもが安心して表現するための
学び方指導の工夫

(1) 生き生きと表現するための指導の充実

- ・「話す・聞く」の継続的指導
- ・自分の立場を明確にするハンドサインの活用
- ・なりきって話す指導の継続

(2) 学びを広めたり深めたりできる学習形態の工夫

- ・目的を明らかにしたペア交流やグループ交流
- ・考え方や感じ方を深める役割演技の工夫
- ・自己の生き方を振り返る道徳ノートの活用

【研究内容3】道徳性を高めるための道徳科と他の教育活動との関連

(1) 自分と仲間のよさの自覚につながる工夫

- ・道徳と関連させた「かがやきみつけ」の工夫

(2) 自己を見つめ、よりよい生き方をめざすための体験活動等の工夫

- ・道徳科と児童会活動や学校行事との関連
- ・多様な生き方にふれる出前授業の活用

特別活動

各教科・外国語活動

総合的な学習の時間

日常の指導

よりよい集団づくり

深い信頼関係 共感的な児童理解

よりよい生活や
人間関係を築く